

## 看 護

### 1 学習指導と評価における課題

学習指導要領等については、これまでも、時代の変化や生徒の実態、社会の要請等を踏まえ、数次にわたり改訂されてきた。前回の改訂では、教育基本法の改正により生徒の「生きる力」の育成をより一層重視する観点から見直しが行われ、特に学力については、「基礎的な知識及び技能」、「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」の、いわゆる学力の三要素から構成される「確かな学力」をバランス良く育むことを目指し、教育目標や内容が見直されるとともに、習得・活用・探究という学習過程の中で、グループで話し合い発表し合うなどの言語活動や、他者、社会、自然・環境と直接的に関わる体験活動等を重視することとされた。

こうした中、看護に関する学科においては、教科の目標が3つの事項から構成されており、その中に基礎的・基本的な知識・技術を身に付けさせ、生涯にわたって学び続けていく態度の育成、看護の職業に従事する者として必要な意識の高揚を図ることにより自覚と責任をもって行動する態度の育成、さらに実践力や問題解決能力、自発的、創造的な学習態度の育成に向けた教育の充実を図っていくことが求められている。

このことから、学校教育を通じて育むべき資質・能力を教育課程全体の構造の中でより明確に示し、それらを生徒が確実に身に付けることができるよう、教育課程の全体像を念頭に置きながら日々の教育活動を展開していくことが大切である。今後は、さらに生徒にどのような力を育むのかという観点から、教科等を越えた視点を持ちつつ「何ができるようになるのか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理し育成するために「何を学ぶのか」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶのか」という、生徒の具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある。

### 2 育成すべき資質・能力を踏まえた学習指導・評価の改善・充実

#### (1) 教科において育む資質・能力を踏まえた指導の改善・充実

少子高齢化の進行、入院期間の短縮、在宅医療の拡大などを踏まえ、看護を通して、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。

#### ア 教科の特質に応じ育まれる見方・考え方

看護の視点からは健康に関わる問題を捉え、人々の健康の保持増進及び疾患や治療の影響を受ける生活の質の向上について、当事者の考えや状況を踏まえて考える。

#### イ 育成すべき資質・能力

(ア) 看護について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解、関連する技術の習得。

(イ) 看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力。

(ウ) 職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々

の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度。

ウ 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

(ア) 多職種と連携・協働し、多様な生活の場にいる人々の看護について、専門性の高い実践力を養う学習の充実。

(イ) 医療安全に関する学習の充実。

(ウ) 各領域における倫理的課題に関する学習の充実。

エ 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善・充実

看護に関する学科においては、知識・技術を身に付けるにとどまらず、実験・実習という実際の・体験的な学習を重視してそれらの知識・技術を実際に活用できる実践力の育成に努めてきているが、今後もアクティブ・ラーニングの三つの視点から、これらの学習活動を再確認し、不断の授業改善に取り組むことが求められる。看護の具体的な課題に取り組むに当たっては、看護教育で育まれる見方・考え方を働かせ、生活の質の向上について、当事者の考えや状況を踏まえて考えるといった「深い学び」に繋げていくことが重要である。「深い学び」を実現する上では、課題の解決を図る学習や臨床の場で実践を行う「看護臨地実習」の果たす役割が大きい。

また、医療施設だけでなく看護の実施されている様々な施設での実習についても充実させ、実習の成果や課題をまとめた報告書の作成や発表は自らの考えを広げ深める「対話的な学び」に、近年の看護・医療・福祉を取り巻く環境の変化に対応する最新の知識と技術について、医療職・福祉職などの社会人講師を活用した授業などにより、指導の充実を図ることで、生徒の学ぶ意欲を高める「主体的な学び」につながるものである。

(2) 学びの過程を重視した単元の指導と評価の計画

看護の学習指導や評価計画の作成に当たっては、「何を知っているか、何ができるか」(個別の知識・技術)、「知っていること・できることをどう使うのか」(思考力・判断力・表現力等)、「どのように社会・世界とかがわり、より良い人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)」という視点に基づき、上記の育成すべき資質・能力の育成を踏まえ、学習指導や評価計画の作成に取り組んでいくことが重要となる。その上で、「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」という、学びの過程に着目してその質を高めていくことが重要である。産業教育において、資質・能力の育成に向けては、従前から実施されている具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習の充実が求められており、看護教育においても生徒が主体的に設定した看護に関する課題について、問題解決的な学習を行うよう配慮されている。そのためにも、学習のプロセスが重要となり、アクティブ・ラーニングの視点のもと、「習得→活用→探究」の流れに基づいて進めていくことでより学習・指導方法の改善を実現することが可能となる。

ここでは、「看護臨地実習」を展開する上で必要となる基礎的・基本的な知識・技術の学習である、科目「基礎看護」の単元「(2) 日常生活と看護 エ 活動・運動の援助」を例に示した。この科目は看護を適切に行うための基礎的な能力を養う科目であり、科学的な知識の裏付けや最も確かな方法を自ら考え、創意工夫する能力の育成が求められていることから、学びの過程を重視した単元の指導計画と学習指導案の例を示す。

科目「基礎看護」 単元「(2) 日常生活と看護 エ 活動・運動の援助」

科目名	基礎看護 (1学年・4単位)								
単元名	(2) 日常生活と看護 エ 活動・運動の援助								
単元の目標	1 活動・運動が健康に及ぼす影響、姿勢や体位の種類と生理的な特徴、ボディメカニクスの原理について学習させる。 2 疾病・障害や治療により安静を強いられる患者や廃用症候群のある患者の心身の苦痛と障害について理解させる。 3 ボディメカニクスの原理に基づいた床上における安楽な体位と良肢位、体位変換、移動と移送、床上運動についての知識と技術を習得させる。								
評価の観点	A：関心・意欲・態度		B：思考・判断・表現		C：技能		D：知識・理解		
評価規準	活動・運動が健康に及ぼす影響に関心を持ち、安静を強いられる患者や廃用症候群のある患者の援助について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。		安静を強いられる患者や廃用症候群のある患者の心身の苦痛と障害の援助について、科学的に思考を深め、ボディメカニクスの原理に基づいて、適切に判断し、考えを表現している。		安静を強いられる患者や廃用症候群のある患者の心身の苦痛と障害の援助に関する資料を収集し、その意味を読み取り、整理し、まとめている。 体験・実習を通して、ボディメカニクスの原理に基づいた床上における安楽な体位と良肢位の保持、体位変換、移動と移送、床上運動に関する基礎的な技術を身に付けている。		活動・運動が健康に及ぼす影響、姿勢・体位の種類と生理的な特徴、ボディメカニクスの原理について理解している。 安静を強いられる患者や廃用症候群のある患者の心身の苦痛と障害について理解している。 ボディメカニクスの原理に基づいた床上における安楽な体位と良肢位の保持、体位変換、移動と移送、床上運動に関する基礎的な知識を身に付けている。		
指導と評価の計画 (配当時間11時間)									
配当時間	学習内容	学習のねらい	評価規準と観点	A	B	C	D	授業形態	評価方法
2時間	・床上運動に関する基礎知識 ・基本体位と特殊体位 ・安楽な体位と良肢位とは	活動・運動が健康に及ぼす影響に関心を持たせ、ボディメカニクスの原理に基づいた、床上運動に関する基礎知識、基本体位と特殊体位、安楽な体位と良肢位について理解させる。	ボディメカニクスの原理に基づいた、床上運動に関する基礎知識、基本体位と特殊体位、安楽な体位と良肢位についての知識をまとめることができる。	○			○	・講義 ・VTR視聴 ・ワークシート使用	・活動状況の観察 ・ワークシートの記述内容
2時間	・安静を強いられる患者や廃用症候群のある患者の援助	安静を強いられる患者や廃用症候群のある患者の心身の苦痛と障害の援助に関する資料を収集・整理、まとめ、患者の心身の障害と苦痛を考えさせる。	安静を強いられる患者や廃用症候群のある患者の心身の苦痛と障害について理解し、それらを予防する考えを表現できる。		○		○	・講義 ・課題調査	・課題レポート (廃用症候群予防の援助)
6時間	・体位変換	科学的思考を深め、ボディメカニクスの原理に基づいた体位変換に関する基礎的な知識・技能を身に付けさせる。	ボディメカニクスの原理に基づいた体位変換に関する基礎的な知識・技能に関心を持ち主体的に課題に取り組もうとしている。	○		○	○	・グループ・ディスカッション ↓ (ジグソー学習法)	・活動状況の観察 ・ワークシートの記述内容
1時間	・課題発表会	学習した内容をグループでまとめ、発表させる。	わかりやすくまとめ、表現することができる。		○			・グループ・ディスカッション	・活動状況の観察

※評価の観点は、A (関心・意欲・態度)、B (思考・判断・表現)、C (技能)、D (知識・理解)

【グループディスカッションを効果的に進めるジグソー学習法について】

1 看護教育の現状 ○ 臨床現場におけるカンファレンス機会の増加 ○ 個々に応じた看護計画の作成や、安全管理の問題等、様々な課題を協議 ○ 看護の基礎教育におけるグループ・ディスカッションの必要性 2 ジグソー学習法について ○ 大きな学習課題を分割したり、異なる事例学習に効果的であること。 〈例1〉 ベッドメイキングの技術を分割して学習し、互いに教え合う演習 〈例2〉 小児の注射等に関する技術について課題別グループで学習し、母集団で互いに教え合う場合 ○ 課題別グループで学習した内容を、母集団に戻って教え合う作業が加わることにより、生徒が自分の学習内容を複数の生徒に教えなければならないこと。また、わかりやすく教えるためには、学習内容を適切に理解していることはもとより、プレゼンテーション能力も必要である。
---

(3) 「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善

◆ジグソー学習を活用した、小単元「体位変換」の授業計画例

次 程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>本グループを編成する。(生徒5人1グループを8グループ編成)</li> <li>グループ内で課題を分担する。</li> <li>課題「体位変換の5つの方法」★1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習方法について説明し、今後の学習のイメージ化を図る。</li> <li>グループ編成は、生徒個々の個性を配慮して編成する。</li> </ul>
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題別グループに分かれ、各自の課題について学習する。</li> <li>各自の学習内容をノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれに割り当てられた課題内容のひとつひとつが、グループ全体の学習成果に重要に関わっていることを伝え学習の意識付けをする。</li> </ul>
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題別グループ・ディスカッション。</li> <li>課題毎の学習内容をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題別グループで、各自で学習した内容を持ち寄り、報告し質疑や協議をさせ、課題別ワークシートを完成させる。★2</li> </ul>
第4次	<ul style="list-style-type: none"> <li>本グループに戻り、課題別グループで学習したことを教え合う。本グループの「体位変換の5つの方法」をまとめ、課題発表会の準備をする。★3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡視して学習活動を活発に促す。</li> <li>質疑応答を踏まえ、再検討させる。</li> <li>グループ内での役割を事前に決めさせる(説明係1名、患者役1名、看護師役1名、感想発表係1名、PC・プロジェクター係1名)</li> </ul>
第5次	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題発表会</li> <li>当てられた体位変換の方法を、パワーポイントを活用して説明したり実演する。</li> <li>他グループの説明や実技を見て感想を述べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループでまとめた内容を、説明と実技で発表させる。発表しないグループには感想を述べさせ、学びを共有化させる。</li> <li>他のグループからの学びをワークシートにまとめ、知識・理解を深めさせる。</li> </ul>

主体的な  
対話的な  
学習

習  
得

対話  
的な  
学  
習

活  
用

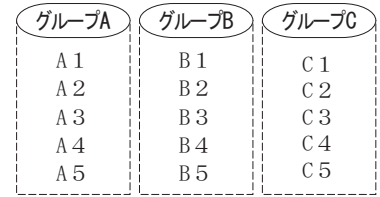
深  
い  
学  
び

探  
究

- ★1 「体位変換の5つの方法」の課題は、A：仰臥位から側臥位、B：仰臥位から長座位、C：長座位から端座位、D：端座位から立位、E：仰臥位からファウラー位の5つの方法。
- ★2 各自で学習した内容を持ち寄り、グループで協力し合い課題別ワークシートをまとめる。体位変換の方法について、手順や留意点と根拠をまとめる。また、相手の学習内容から特に参考になったことや気付いたことを記入させる。
- ★3 完成した課題別ワークシートを持ち寄り、本グループの学習成果「体位変換の5つの方法」をまとめさせる。課題別ワークシートをデータ化し、課題発表準備をする。

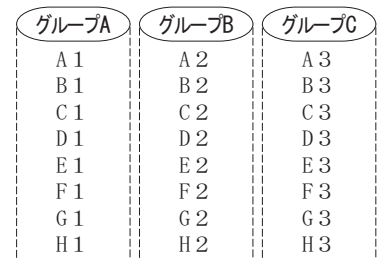
◆第1次～3次の学習イメージ

主体的・対話的な学び



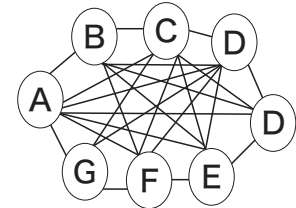
◆第4次の学習イメージ

対話的な学び



◆第5次の学習深い学びイメージ

深い学び



(学びのネットワーク化)

<課題別ワークシート> ～生徒記入例～

- ◎2人で課題について話し合い、学習した内容をまとめてみよう!
- ◎課題別グループ・ディスカッションメンバー  
(1グループ：美唄 聖子 2グループ：稚内 高子)
- 課題A：仰臥位から側臥位 (右側)

手 順	※根拠や留意点
1 看護師は患者が側臥位で向く右側へ移動する。ベッド左端へ水平移動を行う。 2 患者の顔を、右側に向ける。 3 右側の患者の肩を外転し、肘を屈曲し手掌を上向きに顔の横に位置するように外旋する。	※1 体位変換後、ベッド中央に身体が位置するようにするため。 ※3 右側臥位時に身体の下に腕が巻き込まれないようにするため。別法として、両腕を深く組み行う方法がある。その時、左腕が上になるように腕を組む。
9 左右の腸骨部を支え、上側を手前に、下側を向こう側にずらす。 10 上側の下肢を手前側にし、両膝を軽く屈曲させる。	※9・10 患者の身体が安定するようにするため。
話し合いで特に参考になったこと、気付いたこと	参考文献
① 別な方法として、両腕を組んで行う方法があることを知ることができた。(美唄) ② 力のモーメントを活用することで、看護師の腰部にかかる負担が軽減されることが分かり、実習で試してみたいと思った。(稚内) ③ 患者の身体の下にバスタオルを敷いて行うとよりやりやすいと思った。(美唄・稚内)	①○○○：○○○ ②○○○：○○○



【手順3】



【手順9】



【参考、気付いたこと②】